別記 (五)

退職金に添へて

長い間、働きの苦しみと楽しみを共にして来た皆様とかくも唐突にかくも印象的な御別れをしやうとはおよそ誰も予期しなかつた事でせう。しかし御承知の通りの事情と趨勢からとは云へ皆様とかくも結ばれる事になつたのは何かの約束事であつたかもしれません。皆様の小生に示してくれた好意と親愛の誠に対しては只々感激あるのみ又小生の日頃の信條(愛と誠と熱)から必ずこれに報ゆる日の近きを期して居ります。

係て、当面の実際問題として注意したい事は今日渡された退職金を決して無駄使ひせぬ事です、これはとりあへず貯金して全然念頭に置かずに明日の計を立て、下さい。又滋りに外出する事も此際深く考へねばなりません、一寸気の毒ゆる人だ今どん不悪魔が諸君を狙つていふいとも限りません、厚化粧、華美な服装、異性との外出等に傾むべきです、次に今後の皆様の働き口ですがこれはいかに小生が責任をもつて善処するとしてもある程度迄はやはり皆様の自由意志と深い考慮に俟つより他にありません、学事件の解決発表以来又方々の同情が漸次と吾々の上に集り方々から小生へ資金の提供、仕事の委託などいろいろ話もあり又小生と行を共にしたい人々をぜひ世話したいから此の重大問題も案外早く解決を見る事が出来るであろうと信じて居ります、只要は適材適所の問題です、今迄通りの清い働きを皆様にあてがひたいと只それのみが小生の苦衷です、皆様が此の問題は事件の一段落つたら今後の任務所で皆様が一人〳〵とゆつくり相談したいと考へて居ります。

皆様、あの事件の最後の劇的な場面、碧川バンドの奏でる〝美弘小唄〟を聴